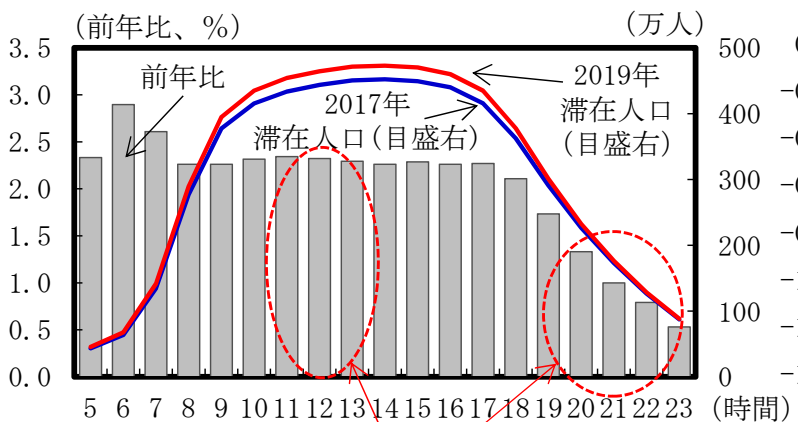


参考：モバイル位置情報のビッグデータを活用した働き方改革の分析事例

- 携帯電話の端末情報から東京23区における2月の平日の滞在人口(20~59歳)を1時間毎に推計したデータを利用。滞在人口は、昼間人口の伸びと比べて夜間人口の伸びが低く(前年比昼夜差がマイナス)、特に20代・30代男性を中心に働き方改革が進展している可能性がみられる。
- 各地域の業種構成により、地域特性を4分類した上で、それぞれの傾向の違いをみると、金融業等の割合が高いオフィス街では、昼間人口に比べて夜間人口が大きく低下している一方、飲食業等の割合が高い繁華街では、夜間人口は大きく減っておらず、残業時間が減って、外食・ショッピングに充てられている可能性が示唆される。また、前年比昼夜差のヒートマップをみると、多くのエリアで減少。特にオフィス街(A~C)では減少傾向、一方繁華街(D~F)では増加傾向がみられた。

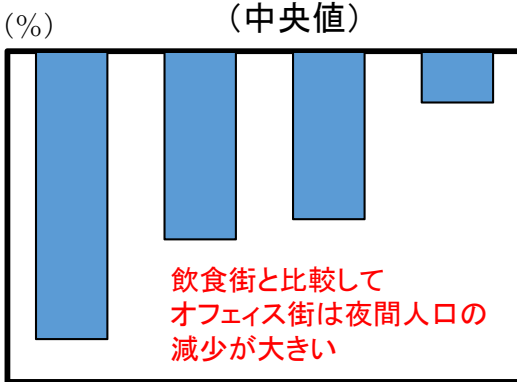
I 図 東京23区全体の時間帯分布と増減率



昼間人口の伸びと比べて夜間人口の伸びが低く、帰宅時間が速くなっている

	男女計			男性	女性
	日中前年比	夜間前年比	前年比昼夜差	前年比昼夜差	前年比昼夜差
全体	2.3	1.2	-1.1	-1.2	-0.7
20代	3.9	2.7	-1.2	-1.6	-0.7
30代	-1.1	-2.6	-1.5	-1.6	-0.9
40代	2.4	1.6	-0.8	-0.6	-1.3
50代	5.3	5.3	0.0	0.2	-0.4

II 図 地域分類による前年比昼夜差(中央値)

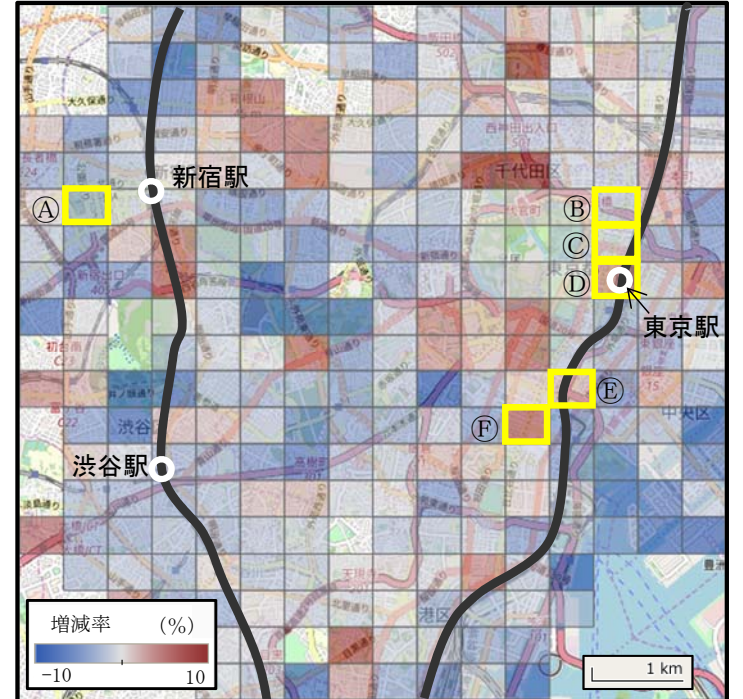


飲食街と比較してオフィス街は夜間人口の減少が大きい

- 金融・卸売・情報通信等
- 医療・福祉等
- 建設・製造・運輸等
- 飲食・小売・娯楽等

< 該当地域で割合が高い業種 >

III 図 前年比昼夜差のヒートマップと主要メッシュの減少率



オフィス街	日中前年比	夜間前年比	前年比昼夜差
①西新宿	8.2	4.2	-3.9
②内神田	7.2	5.3	-1.9
③大手町	14.4	13.1	-1.2

繁華街	日中前年比	夜間前年比	前年比昼夜差
④丸の内	-2.3	1.8	4.1
⑤銀座	1.0	2.9	1.8
⑥西新橋	6.5	13.4	6.9

(備考) 株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」、総務省「平成28年経済センサス」により作成。